

黒耀石研究センター活動報告2020

2020年度 黒曜石研究センター活動報告

I 研究活動

(1) 黒曜石原産地判別システムの運用開始

黒曜石研究センターでは2020年の7月から、所有する日本電子（JEOL）社製エネルギー分散型蛍光X線分析装置JSX-3100Ⅱを用いた原産地判別システムの運用を開始した。

今年度はすでに、長野県松本市美ヶ原高原遺跡群（旧石器～縄文）・群馬県前橋市鳥取福蔵寺遺跡（旧石器末）・同市頭無遺跡（旧石器末）・新潟県糸魚川市長ヶ原遺跡（縄文前期～後期）・長野県佐久市香坂山遺跡（旧石器初頭）・群馬県みどり市岩宿Ⅱ遺跡（旧石器）・長野県長和町男女倉遺跡（旧石器）などの原産地推定を実施した。

また池谷信之の所有するSIIナノテクノロジー社製SEA-2110では、長野県御代田町川原田遺跡（縄文中期）・新潟県上越市丸山遺跡（縄文草創期?）・愛知県および岐阜県出土の尖頭器（縄文草創期）・千葉県我孫子市下ヶ戸貝塚（縄文後期～晩期）の原産地推定を実施した。

(2) 信州黒曜石原産地の踏査

①2020年5月27日：男女倉地区本沢周辺、池谷信之・須藤隆司 男女倉地区本沢周辺はこれまでの踏査が必ずしも十分ではなく、産状と分布について不明な部分が多いため、踏査を実施した。「本沢下」とされている地点で、赤褐色の流理を含む比較的良質の原石を確認し、本沢から斜め左に折れる旧林道の崖面沿いで破碎した黒曜石の溶岩流を確認することができた。

②2020年5月28日：男女倉地区牧ヶ沢・高松沢周辺、池谷信之・須藤隆司 男女倉遺跡に搬入されている斑晶をほとんど含まず灰色の流理（縞状の模様）が認められる黒曜石の存在を確認することを主な目的として、踏査を実施した。その結果、高松沢林道崖面に認められる泥流中に、斑晶の多いいわゆる「高松沢の黒曜石」に交じって同種の原石が点在していることを確認した。

③2020年10月21日：和田古峠～三峯山周辺：池谷信之・須藤隆司 和田古峠～三峯山にかけての稜線沿い（ピーナスライン沿い）は、これまでほとんど踏査が及んでいない地域である。野口宏氏（松本市在住）によれば遺物が採取できる地点や原産地と思われる場所があるとのことであり、氏の案内のもと踏査を実施した。その結果、長和町と下諏訪町の境界付近で溶岩ドーム状の地形を確認し、そこから流出した大量の原石と、旧石器～縄文にかけての石器未製品を発見した。今後、この原石を蛍光X線分析し、既存の判別群との対比を試みる予定である。

(3) 佐久市香坂山遺跡発掘調査への参加と黒曜石原産地推定

須藤隆司は2020年8月3日から9月18日にかけて実施された香坂山遺跡の学術発掘調査に参加した。この調査では、隣接する八風山で産出するガラス質黒色安山岩や黒曜石を石材とする列島最古段階の石刃石器群が出土して注目を集めた。

黒曜石研究センターでは出土黒曜石60点を対象とした蛍光X線分析による原産地推定を実施し、蓼科冷山産51点、和田鷹山産2点、分析不可7点という結果を得た。この結果は最古期石刃集団の行動範囲の推定にあたり、有力な判断材料を提供することになる。

(4) 最終氷期における中部高地の景観変遷と黒曜石資源開発をめぐる人間－環境相互作用

本共同研究は2020年度から科研費基盤(B)19H01345により実施している。2019年度に実施した矢出川湿原から得られた複数のボーリングコアの年代測定の結果、いずれも完新世以降の年代に属していたことから、2020年度には矢出川湿原以外の候補地を選定し、中部高地における更新世堆積物の花粉分析を目的とした補足ボーリング調査を計画した。しかしながら、Covid-19の感染拡大により計画を実施できず、当該計画と経費は2021年度に

繰越された。一方、Bruker 製の携帯型 XRF を用いた中部高地原産地の化学組成判別図を作成した。

WD-XRF 他分析による推奨値を持つ、COLS 保管の中部高地原産地既知濃度原石試料99点（隅田・及川2019）を同 p-XRF の Obsidian 工場検量線で測定した結果、推奨値との間に強い相関が得られたことから、元素濃度に基づく望月・池谷方式（Rb 分率、Sr 分率）と隅田方式（未発表）による判別図を作成し、悉皆的な中部高地所在石器群の分析を行う準備を整えた。また、帯磁率測定に基づく安山岩製遺物の原産地分析法の確立に一定の成果を得た。

Ⅱ 研究交流・研究会

(1) 黒曜石研究センター主催「資源環境と人類2020シンポジウム」『旧石器から縄文へ中部日本の地域的様相―』

日時 2020年12月12日（土） 12:00～16:30 Zoomにて開催

近年資料の蓄積が著しい中部日本地域の旧石器から縄文への移行期を取り上げ、特に細石器文化を中心として縄文土器の出現までの変遷について検討をおこなった。

西日本地域や九州地域、そして大陸側との比較検討を通じて、細石器文化が地域的な変容を遂げつつある姿や土器型式の地域性についても議論が及んだことは、今後の研究にも大いに益するものがあつたに違いない。

開催が近づいた秋期に及んでもなお、コロナ感染者数の減少が見られなかったことから、10月段階で Zoom を用いたオンライン開催を決定。事前に参加者を募って資料集（PDF）をダウンロードできる環境を整え、当日開催の運びとなった。シンポジウムでは各研究者の発表に続き、総合討論をおこなって当該期の研究課題について掘り下げると共に、参加者からはチャット機能を用いた確認事項や質問等を受け付けることで、双方向的な議論を保つようにめた。

オンラインでのシンポジウム開催は初めての試みであり、参加者からは移動等の無駄がなく気楽に参加できたと好意的な意見と共に、発表が一方的となり総合討論での議論の噛み合いが不十分であったとの印象もあった。

第1部 研究発表

1. 「赤城山南麓の北方系細石刃石器群の文化受容」 諸星良一（株式会社東京航業研究所）
2. 「中部北部の移行期〈上原 E 遺跡・大刈野遺跡〉」 佐藤雅一（津南町教育委員会）
3. 「湧別技法の在地的変容」 堤 隆（明治大学黒曜石研究センター）
4. 「関東最古の土器型式と石器群 ～大平山元 I 遺跡の無文土器は最古か？～」 栗島義明（明治大学黒曜石研究センター）
5. 「隆起線文土器群の展開と地域性 ―本州東部を中心に―」 村上 昇（豊橋市教育委員会）
6. 「近畿・中国・四国地方における旧石器文化の終焉と移行期の様相」 絹川一徳（明治大学黒曜石研究センター／（公財）かながわ考古学財団）
7. 「九州の旧石器・縄文時代移行期の様相」 芝 康次郎（文化庁）
8. 「環日本海北部地域における土器出現期～アムール川下流域を中心に～」 橋詰 潤（新潟県立歴史博物館）

第2部 総合討論

(2) 長野県黒曜石フォーラム

今年度より事務局を黒曜石研究センターが担当することになった。信州黒曜石フォーラムでは、これまで市民も対象に含めたシンポジウムやサミットを年1回程度開催し、黒曜石研究の進展と裾野の拡大をはかってきた。しかし Covid-19 の影響により、こうした形での開催は難しくなった。そこで長野県内および黒曜石研究センターの研究者をメンバーとした研究例会を年4回程度開催し、当面の間、実資料にもとづいた検討を重ね、黒曜石研究の成果を共有していくこととした。

第1回フォーラム例会 1月23日（土） 19:00～21:00 Zoomにて開催

1. 「今後のフォーラムの体制と運営について」 池谷信之（黒曜石研究センター）
2. 「『最古の信州ブランド 黒曜石展』の総括」 大竹憲昭（長野県埋蔵文化財センター）
3. 「諏訪市ジャコッパ遺跡群の黒曜石原産地推定結

果をめぐって」 児玉利一（諏訪市博物館）

参加者：19名 次回は4月開催を予定

(3) 黒曜石研究センター研究集会

黒曜石研究センター構成員の一年間の研究成果を持ち寄り、議論を通じて次の共同研究の発想を得ることを目的として年1回の研究集会を開催している。例年は構成員以外にも公開してきた研究集会であるが、今年は構成員のみでZoomによって開催することになった。

日時 2020年12月20日（日）13:00～17:00 Zoomにて開催

第1部 旧石器～弥生時代

1. 石川日出志 「銅鐸九州成立の可能性」
2. 小野 昭 「環境と人類活動の因果関係は事例研究でどこまで復元できるか」
3. 大工原豊 「房総地域の縄文時代中期の黒曜石製大形石鏃について ―東長山野型石鏃の展開とその意義―」
4. 中村由克 「帯磁率による安山岩の産地推定法」
5. 栗島義明 「縄文時代中期の集落形成と大珠分割」

第2部 短報

6. 矢島國雄 「星箕峠の発掘調査ほか」
7. 池谷信之 「「低電圧励起」による黒曜石原産地の新判別法とその展望」
8. 島田和高 「中部高地黒曜石基準試料を用いたp-XRFによる原産地分析」
9. 須藤隆司 「信州黒曜石原産地の原石獲得行動―男女倉遺跡群の分析から―」
10. 佐々木由香 「縄文時代出土土器圧痕から見た鱗茎利用」

第3部 その他の時代・文化財分析

11. 能城修一 「千葉県道免き谷津遺跡・雷下遺跡の出土木材からみた縄文時代早期および後・晩期の森林植生と森林資源の管理と利用」
12. 遠藤英子 「キビのヨーロッパへの拡散の時期と経路」
13. 谷畑美帆 「古病理学的初見（骨病変）と埋葬形態について」
14. 水沢教子 「縄文時代中期柵倉式土器の胎土分析―

現在の進捗状況―」

誌上発表

15. 絹川一徳 「阿波の火打ち石 ―近世阿波国における大田井と巖崎の火打ち石について―」
16. 会田 進 「遺物としての大地 土壌フローテーションの勧め」

(4) 2020年明治大学博物館特別展『氷期の狩人は黒曜石の山をめざす ―明治大学の黒曜石考古学―』の開催

本展覧会は明治大学博物館が主催し、明治大学黒曜石研究センターと長和町教育委員会の協力のもと2020年10月15日～2021年1月27日にかけて同博物館において開催された。Covid-19感染拡大の影響から広原遺跡群出土遺物とパネル解説を中心とした展示内容となった。

展示項目は「なぜ黒曜石を研究するのか」「明治大学の黒曜石考古学クロニクル」「最終氷期におけるヒトと黒曜石のダイナミクス」「完新世初頭の気候温暖化と鉾山活動」である。開幕の直前に大学方針による博物館本体の休館措置が解除され、一般市民の来館も可能となったが、常設展示も含めて来館者数は例年の1/10以下の実績（特別展入館者数733人）だった。10月末以降、「明治大学博物館 Online Museum」でバーチャル特別展を公開している（<http://ict-museum-meiji.tokyo>）。

なお、会期中には、博物館長とCOLSセンター長はじめ関係各位による本学の役員・役職者への展示解説を行なった。

(5) 国際研究交流

本年度はフィールドワークを含む交流はCovid-19のため実現できなかったが、論文関係の投稿計画で議論をおこない、いくつか予定を立てた。また2023年の国際黒曜石会議（IOC Engaru 2023）の準備を開始した。その概要は以下のとおり。

① Dr. Dora Manseau から Obsidian and the Sea の論集計画があり、池谷信之が論文にエントリーした。Proceeding は Cambridge University Press から出版される予定である。

② フランスのボルドー大学の Professor Francois-Xavier

Le Bourdonnec から Obsidian sourcing in Archaeology の論文集刊行の計画があり、論文の投稿の打診があった。元黒耀石研究センター（現長崎大学）の隅田祥光が投稿する予定である。小野昭も予定稿が論集の枠組み内であると認められれば投稿する。

③国際黒耀石会議（IOC）2021Barkley（カリフォルニア大学）は、Internet Conference となった。エントリーの締めきりは2021年3月、黒耀石研究センターからも数名が参加予定。

④国際黒耀石会議（IOC）2023遠軽は、北海道遠軽町白滝ジオパーク推進協議会のサポートを受け、準備会（国際黒耀石会議学術運営部会）が立ち上げられた。黒耀石研究センターからは池谷信之、島田和高、小野昭が委員として参加し、2020年8月と11月に会議が開催された。なお小野が委員長、池谷が副委員長に就任した。このIOC2023の学術報告（Session）の内容については、黒耀石研究センターの参画と貢献が期待されている。

Ⅲ 社会貢献

(1) 黒耀石サンプルの貸し出し

エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置による黒耀石の原産地推定のためのシステム構築を目指している東北大学大学院青木要祐氏に下記のとおり、黒耀石センター所蔵の黒耀石原石サンプルを貸し出した。

期間：2020年8月31日～2021年1月12日 貸し出し先：東北大学大学院 青木要祐 サンプル：和田峠ほか長野県内黒耀石原石

(2) 卒業論文への協力

黒耀石を卒論のテーマとする山梨大学福地研究室の学生を男女倉原産地に案内して産状を説明、さらに長和町黒耀石ミュージアムを案内した。

Ⅳ 黒耀石研究センターの運営

(1) 運営委員会

2020年度黒耀石研究センター運営委員会を以下のとおり開催し、審議事項について委員会の了承を得た。なお

新型コロナウイルス感染防止のため、e-mail にて資料配付と審議を行った。

日 時：2020年10月12日（金）19時00分

場 所：駿河台キャンパス グローバルフロント6階 研究知財会議室

配布資料

No.1 2019年度第3回明治大学黒耀石研究センター運営委員会議事録（案）

No.2 明治大学黒耀石研究センター要綱

No.3 明治大学黒耀石研究センター構成員（2020年度）（案）

議題

①2019年度第3回黒耀石研究センター運営委員会議事録（案）について（資料No.1）

②明治大学黒耀石研究センター副センター長について（資料No.2・3）

③その他

(2) 施設利用

①帝京大学文化財研究所金井拓人ほか3名 2020年4月24日、蛍光 X 線分析装置など分析関係の施設見学

②水沢教子（客員研究員）2020年6月22日・7月21日、エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置 JSX-3100Ⅱによる縄文土器胎土の測定

③中村由克（客員研究員）2020年6月15日・16日、9月16日・17日、12月7日・8日、黒耀石研究センター所蔵のガラス質黒色安山岩・サヌカイトの帯磁率測定。

④隅田祥光（元黒耀石研究センター）2020年12月14日～18日、波長分散型蛍光 X 線分析装置を使用して国内黒耀石原石の全岩分析。

(3) 分析機器の設置・管理の状況

猿楽町第1研究室に設置されている日本電子製エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置（JSX-3100）は、真空ポンプにつながるシャッター周辺に不具合があることが判明した。そのため2021年1月8日に修理を実施し、稼働可能な状態に戻した。今後、黒耀石研究センター（長和町）に設置されている蛍光 X 線分析装置（JSX-3100Ⅱ）との分析値の互換関係を検証した後、同一の判別図にもと

づいた産地推定を実施していく予定である。

また波長分散型蛍光 X 線分析装置については、三年度末から X 線管球からのオイル漏れが続いている。2020年9月24日に取り扱い業者による点検を実施して、その状況を確認するとともに、2021年度の修理に向けた費用の積算を行った。

(4) 黒耀石センター月例会

原則的に月に1回、月例会を開催し、研究の進捗を報告し、センター運営について協議した。本年度は Covid-19のため、全回オンラインミーティング形式で行い、センター構成員および研究知財事務室職員が参加した。

開催日：2020年5月22日、6月19日、7月17日、9月25日、10月23日、11月27日、12月18日、2021年1月27日、2月26日、3月22日。

(5) 日誌抄

2020年4月1日 池谷信之が特任教授として黒耀石研究センターに着任。

2020年4月13日 池谷特任教授、赴任挨拶のため長和町長、教育長を長和町庁舎に訪問。黒耀石研究センター（長和）に季節外れの降雪、積雪は15cmに達する。

2020年4月～ 昨年から開始していた原産地判別システム構築のための黒耀石原石の EDX による測定を本格化させる。

2020年4月15日 池谷特任教授、Covid-19の影響で周辺の教育委員会と博物館に電話にて赴任の挨拶。

2020年4月17日 黒耀石センター内防火設備点検。

2020年4月24日 今年度の事業計画打ち合わせのため、栗島特任教授が黒耀石センター（長和）に来訪。

2020年4月23日 黒耀石研究センター（長和）周辺の気温低下、男女倉付近林道凍結、午後から雪が舞う。

2020年4月24日 帝京文化財研究所4名、施設見学、夕方より降雪、積雪はせず。

2020年4月29日 明治大学学長より Covid-19に関して見舞いが必要な海外の提携先について問い合わせあり、ウクライナ・キエフ国立大学、イタリア・サルディニア・パウ黒耀石博物館、ロシア科学アカデミー極東

支部極東地質学研究所の3か所の研究施設を回答。

2020年5月7日 黒耀石センター内の床暖房を停止。

2020年5月11日 猿楽町研究室付の特別嘱託に、新たに山田綾乃が着任。

2020年5月22日 黒耀石研究黒耀石研究センター月例会開催。

2020年5月27日 池谷特任教授・須藤特別嘱託、本沢原産地踏査。

2020年5月28日 池谷特任教授・須藤特別嘱託、高松沢・牧ヶ沢周辺原産地踏査。

2020年5月30日 黒耀石センター公用車（ライトエース）、リース期間満了のため返却。

2020年6月15日・16日 中村客員研究員、黒耀石センター所蔵サヌカイトの帯磁率測定。

2020年6月17日 知財戦略機構長より Covid-19の影響拡大に伴う「研究活動再開に向けたガイドライン」が示される。

2020年6月19日 黒耀石研究黒耀石研究センター月例会開催。

2020年6月22日 水沢客員研究員、エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置を用いて、縄文土器の胎土分析。

2020年7月1日 須藤特別嘱託、電離放射線健康診断のため長野市へ。

2020年7月7日 夜から翌朝にかけて長野県西部で豪雨、和田有料道路で崖崩れ発生。

2020年7月8日 黒耀石センター特別清掃実施。

2020年7月13日 原産地判別システム構築のための黒耀石原石の測定と、データのチェックを終了、原産地推定が可能に。

2020年7月14日 池谷特任教授、電離放射線健康診断のため長野市へ。

2020年7月17日 黒耀石研究黒耀石研究センター月例会開催。

2020年7月18日 池谷特任教授、新任教員研修(Zoom)。

2020年7月21日 水沢客員研究員、エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置を用いて、縄文土器の胎土分析。

2020年7月28日 本日から黒耀石原産地判別システム稼働開始、美ヶ原高原遺跡群出土の黒耀石を測定。

2020年7月31日 黒耀石研究センター構成員の今年度の

研究計画調査、提出締め切り。

2020年8月11日～16日 夏期休暇のため黒耀石研究センター施設閉鎖。

2020年8月3日～9月18日 須藤特別嘱託、佐久市香坂山遺跡調査に断続的に参加。

2020年8月26日 荒川明治大学理事（研究・情報担当）・飯塚研究推進部長・鈴木研究知財事務長が、黒耀石研究センターを視察、隣接する長和町黒耀石体験ミュージアムも見学。

2020年9月3日 池谷特任教授、長野県黒耀石フォーラムに関する打ち合わせのため長野市へ。

2020年9月4日 池谷特任教授が猿楽町研究室へ出張。石川センター長、能城客員教授、特別嘱託・山田、知財事務室・小林氏と共に、猿楽町第1・第2研究室の設備状況を視察。

2020年9月8日 黒耀石センター所蔵図書の整理と登録作業開始。

2020年9月16日・17日 中村客員研究員、黒耀石研究センター所蔵の黒曜石原石の晶子形態等を観察。

2020年9月22日 『資源環境と人類』執筆エトリー締め切り。

2020年9月24日 波長分散型蛍光X線分析装置のX線管球周辺の点検を実施。

2020年9月25日 黒耀石研究黒耀石研究センター月例会開催。

2020年9月30日 ニューズレター No.13を発行。朝日新聞宮代栄一記者、香坂山遺跡調査成果など取材のため黒耀石研究センター来訪。

2020年10月1日 2021年度科学研究費学内エントリー締め切り。

2020年10月6日 長者ヶ原遺跡出土黒曜石分析のため糸魚川市教育委員会担当者が来訪。

2020年10月9日 島田明治大学博物館学芸員、特別展览展示資料集荷のため黒耀石研究センター来訪。

2020年10月21日 池谷特任教授・須藤特別嘱託、三峰山～和田古峠にかけて原産地踏査。

2020年10月23日 黒耀石研究黒耀石研究センター月例会開催。

2020年10月26日 研究・情報担当常勤・荒川利治理事が、

猿楽町研究室の稼働状況を視察。

2020年10月28日 2021年度科学研究費学内提出最終締め切り。

2020年10月30日 栗島特任教授、特別嘱託・山田が長和町の黒耀石研究センターに出張。運営に関する会議をもつとともに、施設設備を見学。

2020年10月31日 黒耀石研究センター周辺に初霜。山梨大学教育学部福地教授と学生2名を男女倉原産地と黒耀石体験ミュージアムに案内。

2020年11月6日 池谷特任教授、電離放射線健康診断のため長野市へ。

2020年11月8日 池谷特任教授、須藤特別嘱託、岩宿フォーラムに参加。

2020年11月9日 愛知県みよし市平井義敏氏、東海地方西部出土の黒曜石製尖頭器の産地推定のため、黒耀石センター来訪。

2020年11月10日 須藤特別嘱託、電離放射線健康診断のため長野市へ。

2020年11月16日 猿楽町第1研究室の不用品選定と清掃を実施。池谷特任教授、蛍光X線分析装置（猿楽町設置）の動作確認。

2020年11月18日 博物館特別展『氷期の狩人は黒曜石の山をめざす－明治大学の黒曜石考古学－』のオープニングセレモニー、島田博物館学芸員、来賓に転じ説明、石川センター長、池谷副センター長ほか出席。

2020年11月25日 池谷特任教授、今年度の機関誌編集について、鬼灯書籍社長に電話にて打ち合わせ。

2020年11月27日 黒耀石研究黒耀石研究センター月例会開催。

2020年12月1日 石川センター長が荒川研究担当理事と面談、『資源環境と人類』のワードフォーマットを執筆者に送付。

2020年12月7日 中村客員研究員、黒耀石研究センター所蔵のガラス質黒色安山岩・サヌカイトの帯磁率測定（8日まで）。

2020年12月8日 新潟県糸魚川市教育委員会木島氏ほか黒耀石研究センター来訪、分析の済んだ長者ヶ原遺跡出土黒曜石を回収。

2020年12月10日 『資源環境と人類』執筆者にリマイン

ドメール。

2020年12月11日 蛍光 X 線分析装置（猿楽町設置）の業者点検，池谷特任教授立ち会い。

2020年12月12日 黒耀石研究センター主催「資源環境と人類2020シンポジウム」『旧石器から縄文へー中部日本の地域的様相ー』Zoom にて開催。

2020年12月14日～18日 隅田祥光（元黒耀石研究センター）波長分散型蛍光 X 線分析装置を使用して国内の黒耀石原石を測定。

2020年12月20日 黒耀石センター研究集会を Zoom にて開催。『資源環境と人類』原稿締め切り。

2020年12月25日～ 黒耀石研究センター冬期休暇

2020年 1 月 6 日 黒耀石研究センター周辺にこの冬初めての本格的降雪

2021年 1 月 8 日 黒耀石研究センター仕事始め。

2021年 1 月 8 日 蛍光 X 線分析装置（猿楽町設置）の修理を実施，完了。

2021年 1 月 9 日 黒耀石研究センター新年会を Zoom にて開催。

2021年 1 月12日 黒耀石センター周辺に降雪，14日まで断続的に降る。賃借していた重機で除雪。

2021年 1 月23日 信州黒耀石フォーラム例会を Zoom にて開催。黒耀石センター周辺に降雪，24日朝には積雪 35cm。

2021年 1 月26日 佐々木事務員，人事課よりリモートで面接を受ける。

2021年 1 月27日 黒耀石研究黒耀石研究センター月例会開催，夕方までに『資源環境と人類』の原稿5本を鬼灯書籍に入稿。

2021年 1 月28日 黒耀石研究センターに実体顕微鏡を設置。

2021年 1 月29日 島田博物館学芸員，特別展展示資料返却のため，黒耀石研修センター来訪。猿楽町第1研究室の不用品を廃棄。蛍光 X 線分析装置の稼働と，センター員，客員研究員のための研究場所の確保に向けて室内を整備中。

2021年 2 月 3 日 本日までに『資源環境と人類』すべての原稿を受理。

2021年 2 月 5 日 『資源環境と人類』残り 6 本の原稿を

鬼灯書籍に入稿。

2021年 2 月 7 日 『資源環境と人類』「活動報告」の原稿を入稿。

2020年 2 月26日 黒耀石研究黒耀石研究センター月例会開催。

2020年 3 月22日 黒耀石研究黒耀石研究センター月例会開催。

(6)2021年度黒耀石研究センターの組織

センター長 石川日出志（文学部教授）

副センター長 池谷信之（黒耀石研究センター特任教授）

センター員 藤山龍三（文学部教授）

センター員 栗島義明（黒耀石研究センター特任教授）

センター員 矢島國雄（文学部名誉教授）

センター員 小野 昭（元黒耀石研究センター長）

センター員 島田和高（博物館事務室・学芸員）

センター員 能城修一（研究・知財戦略機構客員教授）

客員研究員 会田 進（元長野県考古学会会長）

客員研究員 遠藤英子（東京都立大学プレミアムカレッジ特任助教）

客員研究員 絹川一徳（かながわ考古学財団）

客員研究員 諏訪間順（小田原城天守閣館長・学芸員）

客員研究員 大工原豊（國學院大學文学部兼任講師）

客員研究員 谷畑美帆（文学部兼任講師）

客員研究員 堤 隆（御代田町浅間縄文ミュージアム）

客員研究員 中村由克（下仁田町自然史館館長）

客員研究員 水澤教子（長野県立歴史館）

客員研究員 眞島英壽（前黒耀石研究センター特任講師）

客員研究員 佐々木由香（東京大学総合研究博物館特任研究員）

特別嘱託 須藤隆司

特別嘱託 山田綾乃

運営委員

石川日出志 池谷信之 矢島國雄 藤山龍三（以上，黒耀石研究センター）

飯塚浩司（研究推進部長）

佐藤宏之（東京大学人文社会系研究科教授）

長崎潤一（早稲田大学文学学術院教授）

事務局 小林慶吾（研究知財事務室）

V 研究業績一覧

1. 雑誌論文・著書

池谷信之・佐藤宏之（編著） 2000『愛鷹山麓の旧石器文化』敬文舎：416p.

池谷信之 2020「愛鷹旧石器文化とは何か」池谷信之・佐藤宏之編『愛鷹山麓の旧石器文化』敬文舎：17-43

池谷信之・前嶋秀張 2020「愛鷹山麓における石材の変遷と社会的背景」池谷信之・佐藤宏之編『愛鷹山麓の旧石器文化』敬文舎：185-223

池谷信之 2020「黒曜石製石器の変形と運用」春成秀爾編『季刊考古学・別冊32 上黒岩岩陰と縄文草創期』雄山閣：121-125

池谷信之 2020「比丘尼橋遺跡C地点出土黒曜石製石器の原産地推定」東京都埋蔵文化財センター調査報告356『比丘尼橋遺跡C地点』：39-53

池谷信之 2020「大泉中里遺跡出土石器の黒曜石原産地推定」東京都埋蔵文化財センター調査報告355『大泉中里遺跡第四次調査』：112-115

池谷信之 2021「下ヶ戸貝塚出土黒曜石製石器の原産地推定」我孫子市埋蔵文化財報告64『下ヶ戸貝塚 VII』（印刷中）

加藤 学・池谷信之・沢田 敦 2021「新潟県上越市大潟区丸山遺跡採集の尖頭器－北海道置戸山産黒曜石の検出－」『新潟考古』32：133-141

隅田祥光・池谷信之 2021「明治大学黒曜石研究センター設置の波長分散型蛍光X線分析装置による黒曜石の定量分析値の評価と定量分析」『資源環境と人類』11（印刷中）

池谷信之・須藤隆司・国武貞克 2021「長野県佐久市香坂山遺跡出土黒曜石の原産地推定」『資源環境と人類』11（印刷中）

池谷信之・須藤隆司 2021「岩宿Ⅱ遺跡第3地点出土黒曜石製石器の原産地推定」『岩宿Ⅱ遺跡発掘調査報告書』みどり市教育委員会（印刷中）

Leipe, C., Endo, E., Kuramochi, S., Wagner, M. and Tarasov, P. E. 2020 Crop cultivation of Middle Yayoi culture communities (4th century BCE-1st

century CE) in the Kanto region, eastern Japan, inferred from a radiocarbon-dated archaeobotanical record, *Vegetation History and Archaeobotany*, (in press)

小野 昭 2020『ビジュアル版 考古学ガイドブック』新泉社：96p.

小野 昭 2020「人類史における旧・中・新石器時代」『別冊季刊考古学』32：141-145

絹川一徳 2020「第Ⅰ章 後期旧石器時代」『新版 八尾市史』考古編Ⅱ：1-19

絹川一徳 2020「阿波の火打ち石－近世阿波国における大田井と燧崎の火打ち石について－」『遺跡学研究の地平－吉留秀敏氏追悼論文集－』：597-608

栗島義明 2020「X b層の世界－鹿野場遺跡の石英製石器群の検討から－」『利根川』42：89-107

栗島義明 2020「オオツタノハ製貝輪を巡る諸問題」『考古学集刊』16：47-66

栗島義明・別所鮎実 2020「冬木A貝塚出土のオオツタノハ製貝輪」『埼玉考古』55：13-29

栗島義明・米田穰・阿部芳郎 2020「寿能下層式土器の年代と編年の位置」『埼玉考古』55：1-12

栗島義明 2020「神子柴遺跡の位置」『季刊考古学』153：26-30

栗島義明 2021「大珠分割に見る「糸切技法」」『考古学研究』67（4）（印刷中）

栗島義明 2021「白滝型」細石刃核について『資源環境と人類』11（印刷中）

町田賢一・佐々木由香 2020「中曽根遺跡出土種実圧痕土器」『令和元年度埋蔵文化財年報』公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査課：16-25

佐々木由香 2020「栃原岩陰遺跡における縄文時代の植物資源利用」『北相木村考古博物館研究紀要』1：22-29

佐々木由香・高橋 健・後藤和奏・中山悠那・伊藤美香 2020「大塚遺跡におけるレプリカ法による土器種実圧痕の同定」『横浜市歴史博物館紀要』24：1-14

山本 華・佐々木由香 2021「土器圧痕からみた縄文時代のシソ属果実」『古代』147：57-90.

島田和高（編著） 2020『2020年度明治大学博物館特別

- 展「氷期の狩人は黒曜石の山をめざす－明治大学の黒曜石考古学－」ガイドブック』明治大学博物館：102p.
- 須藤隆司 2020「男女倉石器群の削片技術－男女倉遺跡群再整理経過報告1－」『資源環境と人類』10：45-54
- 須藤隆司 2020「九州の石刃技術－韓半島からみた古本州島の地域的の石刃技術」『遺跡学研究の地平－吉留秀敏氏追悼論文集－』：41-50
- 須藤隆司 2020「愛鷹山麓で選ばれた狩猟具づくり」池谷信之・佐藤宏之編『愛鷹山麓の旧石器文化』啓文舎：255-291
- 須藤隆司・池谷信之 2021「信州黒曜石原産地における原石獲得行動－男女倉遺跡群再整理経過報告2－」『資源環境と人類』11（印刷中）
- 諏訪間 順 2020「平成の大改修から令和へ」『小田原城天守閣特別展図録 復興小田原城天守閣～昭和から平成・令和へ～』小田原城天守閣：113-125
- 大工原 豊・長田友也・建石徹（編）2020『縄文石器提要』ニューサイエンス社：509p.
- 大工原 豊 2020「房総地域の縄文時代中期の大形石鏃－東長山野型石鏃の展開とその意義－」『下総考古学』25：221-244.
- 藤木 聡・谷畑美帆 2020「江戸時代の遺構から出土する黒曜石製「火打石」について」『資源環境と人類』10：59-64
- 堤 隆（編）2020『旧石器研究グループ研究への視座：Communications of the Palaeo Perspective』Vol.1：32p. 旧石器基礎研究・次世代育成研究グループ
- 堤 隆（編）2020『旧石器研究グループ研究への視座：Communications of the Palaeo Perspective：4万年前以前日本列島に人類はいたのか。』Vol.2：56p. 旧石器基礎研究・次世代育成研究グループ
- 堤 隆（編）2020『季刊考古学153：神子柴系石器群とは何か』雄山閣：134p.
- 堤 隆 2020「神子柴遺跡と石小屋洞穴」『季刊考古学・別冊32 上黒岩岩陰と縄文草創期』雄山閣：55-59
- 堤 隆 2020「神子柴論争」『旧石器研究グループ研究への視座：Communications of the Palaeo Perspective』Vol.1：18-29
- 堤 隆 2020「神子柴ディスコード」『季刊考古学153：神子柴系石器群とは何か』雄山閣：14-16
- 堤 隆 2020「痕跡研究と機能論的アプローチ－神子柴遺跡の石器に残るキズから－」『季刊考古学153：神子柴系石器群とは何か』雄山閣：47-44
- 中村由克 2020「黒曜石自然面解析法による神子柴遺跡尖頭器の原石採集地の推定」『資源環境と人類』10：25-32
- 中村由克・飯塚義之 2020「下鎌田遺跡の玦状耳飾の蛍光X線分析とその再評価」『下仁田町自然史館研究報告』5：19-26
- 金剛萱遺跡研究会 2020「金剛萱遺跡の旧石器文化5-2019-」『下仁田町自然史館研究報告』5：27-34（中村由克：執筆責任者）
- 野尻湖人類考古グループ 2020「仲町丘陵発掘2017・2018の考古学的成果」『野尻湖ナウマンゾウ博物館研究報告』28：75-84（中村由克：執筆責任者）
- 金剛萱遺跡研究会 2020「下仁田のローム層から石器を掘り出す」『地学教育と科学運動』85：92-93（中村由克：執筆責任者）
- 中村由克 2020「神子柴系石器群の利用石材」『季刊考古学』153：60-63
- 神田和彦・中村由克・五十嵐一治・石川恵美子・赤星純平・嶋影壮憲・根岸洋・矢野行一 2019「雄物川下流域における珪質頁岩の分布調査」『秋田考古学』63：1-20
- 神田和彦・中村由克・五十嵐一治・赤星純平・渡部均・加藤竜・加藤朋夏・巴亜子・安田創・久住駿介・小松和平・大上立朗・矢野行一 2019「男鹿半島における珪質頁岩の分布調査」『秋田考古学』63：21-34
- 赤星純平・中村由克・小林喜兵・山谷峰雄 2019「秋田県能代市古館I遺跡出土の擦切石斧素材の発見とその意義」『秋田考古学』63：35-42
- Noshiro, S., Suzuki, M., Joshi, L., Ikeda, H., Ohba, H. 2020. Ecological wood anatomy of *Alnus nepalensis* (Betulaceae) throughout Nepal. *IAWA Journal* 41:261-277.

Abe, H., Kurata, Y., Watanabe, K., Ishikawa, A.,
Noshiro, S., Fujii, T., Iwasa, M., Kaneko, H., Wada,
H. 2020. The separation of softwood and hardwood
in historical wooden statues of the Nazenji-temple
in Japan using NIR spectroscopy. *IAWA Journal*
41:740-750.

能城修一 2021「星糞峠黒曜石原産地遺跡の採掘址から
出土した縄文時代後期の土木材の樹種選択」『資源
環境と人類』11 (印刷中)

本多貴之・能城修一 2021「星糞峠黒曜石原産地遺跡第
1号採掘址から出土した縄文時代後期の漆器の塗膜
分析と樹種」『資源環境と人類』11 (印刷中)

宮内慶介・小林竜太・能城修一 2021「埼玉県川口市赤
山陣屋跡遺跡の縄文時代後・晩期の「トチの実加工
場跡」の構造復原」『資源環境と人類』11 (印刷中)

能城修一・吉川昌伸・佐々木由香 2021「縄文時代の日
本列島におけるウルシとクリの植栽と利用」『国立
歴史民俗博物館研究報告』225 (印刷中)

Noshiro, S., Sasaki, Y., Murakami, Y. In press.
Importance of *Quercus gilva* (イチイガシ) for the
prehistoric periods in western Japan, *Japanese
Journal of Archaeology*. (掲載予定)

藤山龍造 2020「縄文時代草創期の無文土器群」『遺跡
学研究の地平—吉留秀敏氏追悼論文集—』:213-
226.

藤山龍造 2020「文様構成と成形技術の連動性—押圧縄
文土器群の事例分析を通じて—」『考古学集刊』16:
22-45

藤山龍造 2021「狩猟採集社会における土器の誕生」『季
刊考古学』155 (印刷中)

水沢教子 2021「板倉式土器の製作に関する一考察」『長
野県立歴史館研究紀要』27 (印刷中)

水沢教子 2021「千曲川—信濃川流域の地質環境と土器
胎土」『千曲川—信濃川流域の先史文化—資源・土
地利用と生業』津南町教育委員会 (印刷中)

大竹幸恵・矢島國雄・太田光春 (編) 2020『黒曜石原
産地遺跡群 鷹山遺跡群Ⅷ—長野県小県郡長和町鷹
山遺跡群2016~2019年度調査報告—史跡整備に伴う
星糞峠黒曜石原産地遺跡第1号採掘址の調査』長和

町教育委員会・鷹山遺跡群調査団:115p.

矢島國雄 2020「学芸員制度の問題点」山西良平・佐
久間大輔編『日本の博物館のこれからⅡ—博物館
の在り方と博物館法を考える』研究代表者山西良
平, 2018~2020年度日本学術振興会科学研究費助
成事業研究成果報告書 (1), 基盤研究 (C) 仮題番号
18K011115:101-105

2. 学協会発表 (講演要旨・予稿集・紙上発表)

池谷信之・望月明彦・小菅将夫「高崎市折茂Ⅲ遺跡出土
黒曜石製石器の原産地推定」岩宿フォーラム2020
／シンポジウム『北関東地方の環状ブロック群』,
2020年11月8日, みどり市笠懸公民館 (『北関東地
方の環状ブロック群』:52-59), 紙上

絹川一徳「近畿・中国・四国地方における旧石器文化の
終焉と移行期の様相」明治大学黒曜石研究センター
シンポジウム／資源環境と人類2020「旧石器から縄
文へ—中部日本の地域的様相—」, 2020年12月12日,
オンライン (『旧石器から縄文へ—中部日本の地域
的様相—』:41-46), 口頭

栗島義明「関東最古の土器形式と石器群」明治大学黒曜
石研究センターシンポジウム／資源環境と人類2020
「旧石器から縄文へ—中部日本の地域的様相—」,
2020年12月12日, オンライン (『旧石器から縄文へ
—中部日本の地域的様相—』:21-32), 口頭

佐々木由香・米田恭子・山本 華「縄文時代出土土器圧
痕から見た鱗茎利用」日本植生史学会第35回大会,
2020年10月31日, オンライン, 口頭

中山悠那・佐々木由香・小泉玲子「炭化種実検出のため
の効率的な土壌水洗法—中屋敷遺跡の土壌を用いて
—」日本植生史学会第35回大会, 2020年10月31日,
オンライン, ポスター

淵 真琴・佐々木由香・小泉玲子「圧痕レプリカ法を用
いた編みかごの復元—縄文時代中期の金子台遺跡・
弥生時代前期の中屋敷遺跡の土器敷物圧痕から—」
日本植生史学会第35回大会, 2020年10月31日, オン
ライン, ポスター 【優秀発表賞受賞】

山本 華・佐々木由香・能城修一「土器圧痕からみた縄
文時代のシソ属果実」日本植生史学会第35回大会,

2020年10月31日、オンライン（『日本植生史学会第35回大会講演要旨集』：32）、ポスター

國木田 大・佐々木由香・山下優介・守屋 亮・隅田 眞・設楽博己「関東地方における弥生時代の穀類利用の年代研究」日本文化財科学会第37回大会研究発表、2020年9月5～13日、オンライン（『日本文化財科学会第37回大会研究発表要旨集』：100-101）、ポスター

佐々木由香・米田恭子「レプリカ法による縄文時代の鱗茎圧痕の同定方法の開発と利用例」日本文化財科学会第37回大会研究発表、2020年9月5～13日、オンライン（『日本文化財科学会第37回大会研究発表要旨集』：172-173）、ポスター

小泉玲子・佐々木由香・昭和女子大学中屋敷遺跡調査団「神奈川県中屋敷遺跡の弥生時代前期土坑群に関する検討」日本考古学協会第86回総会研究発表、2020年5月（『日本考古学協会第86回総会研究発表要旨』：158-159）、紙上

須藤隆司 2020「鐏川・利根川流域を遊動した狩猟採集民の環状集落」岩宿フォーラム2020／シンポジウム『北関東地方の環状ブロック群』、2020年11月8日、みどり市笠懸公民館（『北関東地方の環状ブロック群』：43-50）、口頭

谷畑美帆「博物館における教育普及活動とその広がりについて」日本考古学協会第86回総会研究発表、2020年5月（『日本考古学協会第86回総会研究発表要旨』：85-86）、紙上

谷畑美帆「墓から出土する資料から感染症を考える—先史から近代まで—」駿台史学会大会、2020年12月12日、オンライン（『駿台史学』171：印刷中）、口頭

中村由克「帯磁率計を用いた安山岩産地推定法—長野・群馬地域を例として」日本考古学協会第86回総会研究発表、2020年5月（『日本考古学協会第86回総会研究発表要旨』：142-143）、紙上

能城修一「千葉県道免き谷津遺跡・雷下遺跡の出土木材からみた縄文時代早期および後・晩期の森林植生と森林資源の管理と利用」日本植生史学会第35回大会、2020年10月31日、オンライン（『日本植生史学会第35回大会講演要旨集』：10）、口頭

板垣光星・桜井尊央・江口文陽・大林宏也・木村李花子・黒澤弥悦・梅室英夫・能城修一「東京農業大学「食と農」の博物館収蔵の古農機具に用いられている木材の識別（3）馬鋤」第71回日本木材学会大会、2021年3月19日、オンライン、ポスター

藤山龍造「西日本の草創期を考えるために」関西縄文文化研究会、2020年8月22日、オンライン、口頭
佐藤嘉則・松野美由樹・犬塚将英・稲田健一・矢島國雄「虎塚古墳の壁画剥落片の微生物解析」文化財保存修復学会第42回大会、2020年7月10日

松野美由樹・片山葉子・犬塚将英・稲田健一・矢島國雄・佐藤嘉則「虎塚古墳の壁画剥落片から分離された微生物群集構造解析」日本文化財科学会第37回大会、2020年9月5～13日

3. 講習会、学習講座、フォーラム等

池谷信之・海部陽介『海を渡った我々の祖先—旧石器時代の航海術と井出丸山遺跡—』沼津市教育委員会文化振興課講演会、2020年9月12日、沼津市立図書館、講師

鈴木克章・池谷信之「いにしへの航海を体験しよう」沼津市教育委員会文化振興課子供向け講座・体験会、2020年9月20日、沼津市文化財センターおよび沼津市海岸、講師

池谷信之「世界最古の往復航海～神津島産黒曜石を求めて～」令和2年度下田市教育委員会連続講座、2020年6月22日、下田市民文化会館、講師

池谷信之「愛鷹山麓およびその周辺における黒色帯の分布と遺跡の形成」第35回考古学研究会東海例会『愛鷹山麓の後期旧石器時代前半期における狩猟活動と植生変化』、2021年2月20日、静岡大学、講師

栗島義明「装身具分布を支えた交易—ヒスイ製大珠とオオツタノハ製貝輪の流通—」『令和2年特別展 JOMON Period』、2020年11月14日、茨城県立歴史館（『特別展図録』：1-12）、講師

栗島義明「縄文時代の遠距離交易—ヒスイ・コハク・辰砂—」『2020年発掘 とくしま』、2020年12月6日、公益法人徳島県埋蔵文化財センター（『2020発掘 とくしま』：8-15）、講師

佐々木由香「縄文人が食べていたもの 土器に残された
不思議なヘコミのヒミツ」三鷹市考古学体験講座
1, 2020年12月13日, 三鷹市教育センター

佐々木由香「栃原岩陰遺跡の今日的意義—1万年前の
土器はどんな役割を果たしたか—」TOCHIBARA
ROCK shelter site FESTIVAL 2020, 2020年12月9
日, オンライン講座

佐々木由香「たいけん考古講座～土器にはなにがかくれ
てる?～」, 2020年11月29日, 綾瀬市神崎遺跡資料
館

島田和高「明治大学博物館 Online ミュージアムに行こ
う! ②—特別展「氷期の狩人は黒曜石の山をめざす」
ガイドツアー—」, 2020年12月12日, 明治大学リバ
ティアカデミー・オンラインオープン講座, 講演

諏訪問 順「いにしえの小田原～発掘で明らかにされた
原始・古代～」NPO 法人小田原ガイド協会ガイド
養成講座, 2020年7月1日, おだわら市民交流セン
ター UMECO, 講師

諏訪問 順「近世の小田原城と史跡整備」NPO 法人小
田原ガイド協会ガイド養成講座, 2020年9月2日,
おだわら市民交流センター UMECO, 講師

諏訪問 順「小田原北条氏と戦国期の小田原城」大和市
市民大学, 2020年11月22日, 大和市桜丘学習セン
ター, 講師

諏訪問 順「近世小田原城と史跡整備」大和市市民大学,
2020年12月6日, 大和市桜丘学習センター, 講師
諏訪問 順「北条領国について学ぶ」忍者ミッション,
2020年12月16日, 小田原城忍者館(オンライン講座),
講師

諏訪問 順「小田原北条氏の山城～河村新城の発掘を中
心に～」お城 EXPO2020, 2020年12月19日, パシフィ
コ横浜, パネリスト(相良英樹氏と共演)

大工原 豊「房総地域の縄文時代中期の大形石鏃」北橋
縄文学講座, 2020年8月28日, 渋川市北橋公民館,
講師

大工原 豊「布良崎神社の石棒の考古学的意義」館山市
生涯学習課・ふるさと講座, 2020年12月12日, 南総
文化ホール小ホール, 講師

大工原 豊・梶山林継・岡田晃司「安房の縄文時代の出

土品(トークイベント)」館山市生涯学習課・ふる
さと講座プラス, 2020年12月12日, 南総文化ホール
小ホール, 講師

谷畑美帆「古人骨からみた病と社会」オンライン研修会,
山梨県高等学校教育研究会生物分科会・東京都生
物教育研究会・日本人類学会 人類学普及委員会 共
催, 2020年11月28日, 講師

谷畑美帆「with 病の社会を考える—骨が語る過去の病
と人々—」船橋市文化講演会, 2020年11月29日, 薬
円台公民館講堂, 講師

堤 隆「縄文美術」ego(東京), オンライン講座, 2020
年5月19日, 講師

堤 隆「モノが語る過去」関西学院初等部(大阪), オ
ンライン講座, 2020年6月1日, 講師

堤 隆「浅間山の基礎知識」御代田町公民館(長野),
オンライン講座(第1回), 2020年7月11日, 講師

堤 隆「1783年天明の浅間焼け」御代田町公民館(長野),
オンライン講座(第2回), 2020年7月25日, 講師

堤 隆「佐久の旧石器時代」佐久考古学会(長野), オ
ンライン講座(第1回), 2020年7月29日, 講師

堤 隆「失われた世界への大冒険」新泉社(東京), 夏
休みジュニア考古学オンライン講座, 2020年8月9
日, 講師

堤 隆「石棒 Zoom in」佐久考古学会(長野), オンラ
イン講座(望月昭秀・藤森英二と鼎談), 2020年8
月12日, 講師

堤 隆「縄文人って誰!」浅間縄文ミュージアム(長野),
オンライン講座(映画監督松本貴子と対談), 2020
年8月20日, 講 師

堤 隆「浅間山の火山活動の今」御代田町公民館(長野),
オンライン講座(第3回), 2020年8月22日, 講師

堤 隆「日本列島におけるサピエンス出現に関する較正
年代」文化財科学会第4回土器科学分析ワーキング
グループ(東京), オンライン講座, 2020年9月6日,
国武貞克(奈良文化財研究所)と共同講師

堤 隆「こくようせきってなに?」森のようちえん ち
いろば(長野), 対面講座, 2020年9月8日, 講師

堤 隆「佐久っとみた縄文人」長野県博物館協議会(長
野), 対面講座(藤森英二と対談), 2020年9月17日,

講師

堤 隆「校正はこうせい」旧石器基礎研究・次世代育成研究グループ（長野）、オンライン講座（第1回）、2020年9月17日、中村賢太郎（（株）パレオ・ラボ）と共同講師

堤 隆「石器のライフヒストリー」塩尻市平出博物館（長野）、対面講座、2020年9月19日、講師

中村由克「下仁田町は魅力いっぱいーまちなかに注目！ー」下仁田町商工会女性部会講演、2020年2月12日、下仁田町商工会、講師

中村由克「発掘でわかった日本にいた最初の人たち」愛知県春日井市南城中学校夢道場（講演）、2020年2月14日、愛知県春日井市南城中学校、講師

中村由克「氷河時代の遺跡の発掘」愛知地区野尻湖発掘説明会「野尻湖発掘のつどい in あいち」、2020年2月15日、愛知県春日井市南城中学校、講師

中村由克「日本の耳飾のルーツと下仁田町」下仁田町教育委員会「下仁田学第4期（講演）」、2020年12月13日、下仁田町公民館、講師

中村由克「野尻湖の石斧・遺跡」東北信野尻湖友の会学習会、2020年12月19日、野尻湖ナウマンゾウ博物館、講師

水沢教子「令和3年度夏季企画展構想『人類の宝、文化財を未来へ』」長野県立歴史館学芸研究会、2020年1月22日、発表

水沢教子「土偶の製作方法と胎土」長野西高校梶の葉セミナー、2020年10月9日、講師

4. その他

会田 進：「岡谷市上向B遺跡の土壌フローテーション調査」

池谷信之：「富士宮市大鹿窪遺跡史跡整備のための調査指導」2020年6月8日

池谷信之：「伊豆の国市横落B遺跡出土遺物整理指導、伊豆の国市文化財整理室」2020年9月14日

池谷信之：「静岡県文化奨励賞審査会出席、静岡県庁」2020年8月3日

遠藤英子：（基盤研究(C)研究代表者）課題番号19K01116 研究課題名「東アジア起源の雑穀（キビ・アワ）の

黒海北側ステップ地帯への拡散の時期と経路」

遠藤英子：（学術変革領域研究(A)研究分担者）領域番号20A103 研究課題名「中国文明起源解明の新・考古学イニシアティブ」（領域代表者 中村慎一）

小野 昭：2020（書評）A.K. コノバツキー著（R. ブランド、Y.V. クズミン共訳）『アレクセイ P. オクドニコフ：過去をさぐる偉大な探検家 第1巻ソヴィエト考古学者の伝記（1900年代から1950年代まで）』Konopatskii, A.K. 2019 Aleksei P. Okladnikov. The Great Explorer of the Past, Volume 1, A biography of a Soviet archaeologist(1900s-1950s). Translated from the Russian by Richard L. Bland and Yaloslav V. Kuzmin, 410P., Archaeopress Publishing Ltd., Oxford. 『旧石器研究』16：113-119

小野 昭：2020「グローバルな研究課題と各地の考古学会への期待」『新潟考古』31：1-6、新潟考古学会

小野 昭：2021「文化財の観光資源化ーその背景と特質ー」『明日への文化財』84：6-16、文化財保存全国協議会

佐々木由香：（学術変革領域研究(A)研究代表者）課題番号20H05811 研究課題名「土器に残る動植物痕跡の形態学的研究」2020年度～2024年度

佐々木由香：（学術変革領域研究(A)研究分担者）課題番号20H05809 研究課題名「土器を掘る：22世紀型考古資料学の構築と社会実装をめざした技術開発型研究（統括班）」研究代表者：熊本大学小畑弘己、2020年度～2024年度

佐々木由香：（基盤研究(A)研究分担者）課題番号19H00541 研究課題名「第三の発掘ー人為化石が開拓する未来の考古資料学の構築」研究代表者：熊本大学小畑弘己、2019年度～2022年度

佐々木由香：（基盤研究(C)研究分担者）課題番号19K01099 研究課題名「中部山岳地における縄文大型マメの継続性に関する研究、研究代表者：明治大学会田進、2019年度～2021年度

佐々木由香：（基盤研究(C)研究代表者）課題番号17K01198 研究課題名「日韓新石器時代における鱗茎利用の空間的変遷の解明」2017年度～2020年度

島田和高：（基盤研究(B)研究代表者）課題番号19H01345

研究課題名「最終氷期における中部高地の景観変遷と黒曜石資源開発をめぐる人間－環境相互作用」(携帯型蛍光X線分析装置の工場検量線測定を用いた既知濃度黒曜石基準試料による原産地判別図の作成)

島田和高：(基盤研究(C)研究分担者)課題番号18K01092

研究課題名「先史人類動態解明の鍵としての黒曜石分析」研究代表者：眞島英壽(COLS客員研究員)(東京都下原・富士見町遺跡出土の黒曜石遺物の原産地分析)

諏訪 順：公益財団法人はまぎん産業文化振興財団発行『マイウェイ』No.116, 2020「小田原北条百年の治世」：1-21執筆・監修

大工原 豊：(基盤研究(C)研究代表者)課題番号19K01002 研究課題名「縄文時代における情報伝達と物資流通システムに関する基礎的研究」(平成31年度～令和4年度)

大工原 豊：(基盤研究(A)研究協力者)研究代表者谷口康浩 課題番号17H00939 研究課題名「更新世－完新世移行期における人間の生態行動系と縄文文化の形成に関する先史学的研究」(平成29年度～令和2年度)

谷畑美帆：(基盤研究(A)研究分担者)課題番号18H03593 研究課題名「考古学・人類学・文化財科学の学際的研究による縄文社会論の再構築」都立大学・山田康弘教授(研究代表者)

谷畑美帆：2020「木更津市内の遺跡から出土している人骨について」『木更津市史編さんだより』5：4-5.

谷畑美帆：2020「骨からわかった意外な健康状態」現代ビジネス11月14日

谷畑美帆：2020「人骨・歯牙」『金鈴塚古墳出土品再整理報告書 本文編』：421-422, 木更津市教育委員会

谷畑美帆：2020「ガラス小玉について」『金鈴塚古墳出土品再整理報告書 考察編』：21-26, 木更津市教育委員会

谷畑美帆：2020「大六台遺跡出土人骨について」『千葉県香取郡多古町大六台遺跡―道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』：26-27, 多古町教育委員会

谷畑美帆：2020「今何をやるかを改めて考える」『コロ

ナ禍リレーコラム』第5回日本考古学協会HP, 12月5日

堤 隆：(基盤研究(C)研究代表者)「神子柴系石器群の生成とその性格をめぐる研究」(2017～2020)

中村由克：(基盤研究(C)研究代表者)課題番号18K01071 研究課題名「高精度の石材鑑定に基づく後期旧石器時代前半期における人類移動についての研究」

中村由克：(基盤研究(C)研究分担者)課題番号18K01066 研究課題名「旧石器時代における石材獲得戦略の研究－地域石材からの視点を中心として－」研究代表者：広島大学博物館藤野次史

中村由克：(基盤研究(B)研究分担者)課題番号19H01345 研究課題名「最終氷期における中部高地の景観変遷と黒曜石資源開発をめぐる人間－環境相互作用」研究代表者：明治大学博物館学芸員島田和高

中村由克：(基盤研究(C)研究分担者)課題番号19K01117 研究課題名「胎土分析から復元する縄文時代中期の土器づくりシステム」研究代表者：明治大学研究・知財戦略機構水沢教子客員研究員

中村由克：長野市民新聞紙上の連載「県歌・信濃の国・地学案内」地学団体研究会長野支部の編集責任者として、編集作業を行う。(『県歌・信濃の国・地学案内』2020年4月～2021年3月、連載中)

能城修一：2020「木製資料の樹種同定」『鷹山遺跡群Ⅷ』：98-104, 長和町教育委員会・鷹山遺跡群調査団.

能城修一：2021「遺跡から見えてくる縄文人の森林資源管理」『グリーンパワー』505：26-29

能城修一：(基盤研究(A)研究分担者)課題番号20H00037 研究課題名「アジア螺鈿文化交流史の構築―物質文化史の視点から」

能城修一：(基盤研究(B)研究分担者)課題番号20H01344 研究課題名「越後縄文人の食性変化と多雪化の関係を明らかにする研究」

能城修一：(基盤研究(B)研究分担者)課題番号18H00631 研究課題名「東アジアにおける木彫像の樹種と用材観に関する調査研究」

能城修一：(学術変革領域(A)研究分担者)課題番号20H05811 研究課題名「土器に残る動植物痕跡の形態学的研究」

水沢教子：(基盤研究(C)研究代表者)課題番号19K01117
研究課題「胎土分析から復元する縄文時代中期の土器づくりシステム」

5. 研究出張

2020年6月25日：池谷信之「帝京大学山梨文化財研究所（花鳥山遺跡出土黒曜石調査）」
2020年6月10日：池谷信之「佐久市香坂山遺跡調査見学」
2020年11月7日～8日：池谷信之「岩宿博物館、笠懸公民館（岩宿博物館企画展見学、岩宿フォーラム参加）」
2020年10月9日：池谷信之「世田谷区宇奈根考古資料室（細石器資料・黒曜石調査）」
2021年1月4日：池谷信之「伊豆の国市文化財整理室（伊豆の国市出土縄文中期黒曜石調査）」
2020年7月26日：栗島義明「日立市立博物館（展示見学・資料調査）」
2020年8月2日：栗島義明「国分寺市教育委員会（資料調査）」
2020年8月7日：栗島義明「埼玉県埋蔵文化財センター（資料調査）」
2020年8月8日：栗島義明「岩宿博物館（資料調査）」
2020年8月20日：栗島義明「佐久市香坂山遺跡（資料調査）」
2020年8月21日：栗島義明「鉢形城資料館（展示見学・資料調査）」
2020年8月26日：栗島義明「埼玉県埋蔵文化財センター（資料調査）」
2020年11月4日：栗島義明「三島市教育委員会他（資料調査）」
2020年11月12日：栗島義明「諏訪市立博物館（資料調査）」
2020年11月25日：栗島義明「青森県立郷土館（資料調査）」
2020年11月27日：栗島義明「福島県埋蔵文化財センター（資料調査）」
2020年12月2日：栗島義明「中之条町教育委員会（資料調査）」
2020年12月14日：栗島義明「群馬県埋蔵文化財事業団（資料調査）」
2020年11月30日：大工原 豊「群馬県埋蔵文化財調査事業団・ハッ場調査事務所（石川原遺跡出土石器の調

査）」同行者：研究協力者芹澤清八
2020年12月11日：谷畑美帆「縄文研究に関する打合せ（オンライン研究打ち合わせ）山田康弘氏主催
2020年6月15日～16日：中村由克「明治大学黒曜石研究センター（サヌカイト・サンプリング）」
2020年7月9日～10日：中村由克「福井県坂井市みくに龍翔館、福井市フィールド（石器石材調査）」
2020年8月1日：中村由克・水沢教子「中野市立博物館（土器胎土分析：千田遺跡出土土器の非破壊カウント・写真撮影）」
2020年8月4日：中村由克「長野県富士見町フィールド（石材調査）」
2020年8月29日～9月2日：中村由克「香川県坂出市フィールド（石器石材調査）」
2020年9月12日：中村由克・水沢教子「中野市立博物館（土器胎土分析：千田遺跡出土土器の非破壊カウント・拓本・実測）」
2020年9月16日～17日：中村由克「明治大学黒曜石研究センター（黒曜石研究）」
2020年10月14日～15日：中村由克「岐阜県美濃加茂市民ミュージアム（石器石材調査）」
2020年10月21日：中村由克「群馬県沼田市フィールド（石材調査）」
2020年11月6日：中村由克「群馬県埋蔵文化財調査事業団（石器石材調査）」
2020年11月11日：中村由克「中野市立博物館（土器胎土分析）」
2020年11月18日：中村由克「明治大学黒曜石研究センター（サヌカイト石材調査）」
2020年11月25日～29日：中村由克「広島県庄原市時悠館（石器石材調査）」
2020年12月7日～8日：中村由克「明治大学黒曜石研究センター（サヌカイト石材調査）」
2020年7月6日：能城修一・佐々木由香「東京都調布市下布田遺跡（発掘調査のための打合せ）」
2020年7月16日：能城修一「群馬県石川原遺跡（樹種同定試料サンプリング）」
2020年8月21日：能城修一・佐々木由香「長野県香坂山遺跡（発掘調査現場見学）」

2020年8月27日：能城修一「東京都小石川一丁目遺跡（報告書作成のための打合せ）」

2020年9月11～12日：能城修一・佐々木由香「福島県二本松城跡（樹種同定試料サンプリング）」

2020年9月18～19日：能城修一・佐々木由香「福島県二本松城跡（樹種同定試料サンプリング）」

2020年9月23～24日：能城修一「神奈川県子易・中川原遺跡（樹種同定試料サンプリング）」

2020年10月6～7日：能城修一「神奈川県子易・中川原遺跡（樹種同定試料サンプリング）」

2020年10月21日：能城修一・佐々木由香「東京都調布市下布田遺跡（発掘現場見学）」

2020年10月22日：能城修一「東京都高輪築堤（発掘調査現場見学）」

2020年11月2日：能城修一・佐々木由香「東京都調布市下布田遺跡（分析試料採取）」

2020年11月5～7日：能城修一「京都府水主神社東遺跡（樹種同定試料サンプリング）」

2020年11月10～12日：能城修一「大阪・神戸所在博物館（南蛮漆器の資料調査）」

2020年11月13日：能城修一「東京都文京区柳町小学校遺跡（発掘調査現場見学）」

2020年11月16日：能城修一「東京国立博物館（所蔵能面

資料調査）」

2020年11月18日：能城修一・佐々木由香「東京都調布市下布田遺跡（樹種同定試料サンプリング）」

2020年12月7～9日：能城修一・佐々木由香「東京都日野市 No.16遺跡（樹種同定試料サンプリング）」

2020年12月21日：能城修一・佐々木由香「福島県二本松城跡（ウルシ資料調査）」

2021年1月6日：能城修一・佐々木由香「東京都文京区柳町小学校遺跡（試料分析のための打合せ）」

2020年4月12日：水沢教子「中野市立博物館（千田遺跡土器胎土観察）」

2020年5月30日：水沢教子「中野市立博物館（千田遺跡土器胎土分析資料選択）」

2020年6月22日：水沢教子「明治大学黒耀石研究センター（池谷信之特任教授と蛍光X線分析の打合せ）」

2020年6月27日：水沢教子「中野市立博物館（千田遺跡土器拓本・実測）」

2020年7月21日：水沢教子「明治大学黒耀石研究センター（池谷信之特任教授と蛍光X線分析の打合せ）」

2021年2月23日：水沢教子「中野市立博物館（千田遺跡出土土器の非破壊カウント・拓本・実測）」